

2023 年度 研究所事業報告書

研究所名	白川静記念東洋文字文化研究所
------	----------------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所の実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどを行い、できるだけわかりやすく記述してください。

なお、2023 年度に採択を受けた研究所重点研究プログラムの詳細な実績報告は、プロジェクト毎に書式 B に記述のうえ提出してください。

当研究所の事業は、学術研究と教育文化の二部門をもって活動しているため、各部門別に成果を報告する。

1) 学術研究事業

①第 17 回立命館白川静記念東洋文字文化賞 学内外の選考委員による審査の結果、大賞は『中国の詩学』の著者の川合康三氏、優秀賞は『勅撰三漢詩集の研究』の著者の半谷芳文氏、奨励賞は『敦煌講唱体文献研究』の著者の高井龍氏と『中国新出土文献の思想史的研究』の著者の草野友子氏と決定し、6 月 17 日に表彰式を仲谷善雄学長臨席のもと、衣笠キャンパス 平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルームにて開催し、東洋の文字文化の進展を図った。

②研究紀要の刊行 『漢字学研究』第 11 号、『立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要』第 17 号を刊行した。前者は第 1 プロジェクトの漢字学研究会による新出土金文の訳注「金文通解」・「古文字学文献提要」などを掲載。後者には高島敏夫「金文に見る古代語の文字表現（四）」・川崎佐知子「享保十六年の近衛家」の論文等を掲載。以上の公刊を通じて、学術成果の社会発信を行った。

③立命館土曜講座の担当 2023 年 1 月の「立命館土曜講座」を第 1 研究プロジェクトが担当した。「文字と絵画」を全体テーマとして、山田崇仁客員研究員が「出土文字資料から見られる先秦史—楚国を事例として」、下野玲子武蔵野美術大学・早稲田大学非常勤講師が「『辟邪絵』に見る疫鬼とそれを滅する神々」と題して講演を行い、一般社会に「知」の普及を行った。

④研究会活動 第 1 研究プロジェクトは、「漢字学研究会」9 回開催して金文の解説と研究発表を行った。第 2 プロジェクトは、南京大学域外漢籍研究所・高麗大学校漢字漢文研究所との学術協定に基づき、新型コロナ禍による三年の中断を経て 2024 年 9 月に「第 7 回東亜漢籍交流国際学術會議」を共同開催（南京大学主催）した。当研究所からは気鋭の 3 名の研究員が研究発表を行い、また 3 名の研究員がコメンテーターを勤めた。2024 年 2 月に「朝鮮渡り唐本研究」と「日中韓文人交流研究会」の研究発表会を開いた。高麗大学校の魯耀翰客員研究員・台湾大学の余筠瑀学外研究員のほか台湾大学の黄美娥教授・魏亦均博士候補人の参加もあって、国際会議としての成果が得られた。第 3 プロジェクトは、リサーチアシスタント高語莎（後期課程院生）や学外の福州大学講師の黄鶯研究員・陝西師範大学教授の郭雪妮客員協力研究員も参加した共同研究の形式で、近衛家熙の『豫楽院殿詩文集』（陽明文庫所蔵）の解説を 10 回開催した。また『賀茂旧記』の釈文を駆使した賀茂社の研究を、承久の乱・宗尊親王の京都送還など鎌倉時代の重要事件の再評価などに焦点を当て進めた。国立国語学研究所『日本語歴史コーパス』等大規模コーパスを用いた日本語の文字・漢字・漢語に関する研究も継続した。以上の主要な活動を通じて研究水準の向上に努めた。

⑤連続公開講座 高島敏夫客員研究員による「《金文講座》—白川静『金文通釋』に沿って」をユーチューブ併用で全 5 回開催。白川博士の重要な研究を一般向けに分かりやすく解説し、社会の文化発展に寄与した。

2) 教育文化事業

①体験型漢字講座「漢字探検隊」 京都・姫路・仙台・福島などで行い、開始以来、通算約 250 回に達した。

②学内外機関との連携 学園内では慶祥小学校、立命館小学校・同中学高校、立命館守山中学高校での「白川漢字」学習の取り組みを支援した。また「白川静巡回展」を京滋の小中高の系列校で開催した。学外では、(公財)日本漢字能力検定協会との連携による「漢字教育士」の養成や産経新聞との共催事業「第 14 回創作漢字コンテスト」（文化庁・福井県など後援）を開催した。当該コンテストには総数 3 万点近くの応募があり、入選者は 7 歳から 94 歳まで広範であった。放送大学大阪教育センターの「漢字学」・大阪 YMCA の日本語教師向けの講座などを担当した。

③地方自治体との連携 福井県における「白川文字学」に基づく漢字教育・生涯学習の支援のほか、姫路市生涯学習大学校・大阪府河内長野市の生涯学習などでの講座を行った。こうした活動を通して社会教育に寄与した。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2024年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位	
研究所長	芳村 弘道	文学部	特任教授	
運営委員	大形 徹	衣笠総合研究機構	教授	
	萩原 正樹	文学部	教授	
	松本 保宣	文学部	教授	
	杉橋 隆夫	衣笠総合研究機構	顧問	
	上野 隆三	文学部	教授	
	石井 真美子	文学部	教授	
	川崎 佐知子	文学部	教授	
	中本 大	文学部	教授	
	前田 亮	情報理工学部	教授	
	湊 宣明	テクノロジー・マネジメント研究科	教授	
	後藤 文男	衣笠総合研究機構	上席研究員	
	加地 信行	衣笠総合研究機構	顧問	
	小椋 秀樹	文学部	教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	井上 充幸	文学部	教授	
	金津 日出美	文学部	教授	
	大田 壮一郎	文学部	教授	
	岡崎 友子	文学部	教授	
	向 静静	アジア・日本研究所	助教	
学内の若手研究者	① 専門研究員 研究員 初任研究員	愛新覚羅 闌和	衣笠総合研究機構	専門研究員
		六車 楓	衣笠総合研究機構	専門研究員（日本学術振興会特別研究員（PD）） ※制度として重複可能なため両方に記載
		斬 春雨	アジア・日本研究所	専門研究員
	② リサーチアシスタント	高 語莎	文学研究科	博士後期課程
	③ 大学院生	兒玉 力哉	文学研究科	博士前期課程
		孫 悦妍	文学研究科	博士後期課程
		陳 銘	文学研究科	博士後期課程
		鄭 玲玉	文学研究科	博士後期課程
		張 志偉	文学研究科	博士後期課程
	④ 日本学術振興会特別 研究員(PD・RPD)	六車 楓	衣笠総合研究機構	日本学術振興会特別研究員（PD）（専門研究員） ※制度として重複可能なため両方に記載
		藤田 優子	文学研究科	日本学術振興会特別研究員

		草野 友子	衣笠総合研究機構	日本学術振興会特別研究員・白川研客員研究員
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究生、研修生等)		山田 崇仁	文学部	授業担当講師・白川研客員研究員
		落合 淳思	文学部	授業担当講師・白川研客員研究員
		秋山 陽一郎	文学部	授業担当講師・白川研客員研究員 大阪公立大学客員研究員
		佐藤 信弥	文学部	授業担当講師・白川研客員研究員 大阪公立大学客員研究員
		松川 雅信	文学部	授業担当講師・白川研客員研究員
		宮本 紗代	文学部	授業担当講師・白川研客員研究員
		許 曉璐	文学部	授業担当講師・白川研客員研究員
		今場 正美	文学部	非常勤講師
		松尾 肇子	文学部	授業担当講師・白川研客員研究員
		高井 龍	文学部	授業担当講師・白川研客員研究員
		花田 卓司	文学部	授業担当講師(白川研客員研究員)・帝塚山大学准教授
客員協力研究員		庄 婕淳	中国惠州学院	講師
		臧 克和	華東師範大学終身教授／華東師範大学中国文字研究與応用センター、教育部人文社科	重点研究基地主任・白川研上席研究員
		詹 千慧	国立彰化師範大学国文学系専攻	助理教授
		余 筠珺	台湾大学中国文学系	助理教授
		魯 耀翰	高麗大学漢字漢文研究所	研究教授
		山本 優紀子	大阪公立大学現代システム科学研究科	客員研究員
		佐藤 信弥	大阪公立大学	客員研究員
		熊野 弘子	森ノ宮医療大学保健医療学部鍼灸学科	准教授
		笠川 直樹	京都精華学園	理事
		村上 幸造	大阪工業大学	客員教授
		高田 宗平	中央大学文学部	兼任講師
		三輪 健介	有限会社啓鉄工業所	社員
		名和 敏光	山梨県立大学国際政策学部	准教授
		松宮 貴之	佛教大学	非常勤講師
		島山 奈緒子	関西医療大学	準研究員
		西山 尚志	埼玉大学教養学部	准教授
		小倉 聖	大東文化大学文学部	非常勤講師
		白須 裕之	京都大学人文科学研究所	助教
	李 強	大阪物療大学保健医療学部	教授	

	上島 理恵子	白川静記念東洋文字文化研究所	客員研究員
	李 寅雨	(韓国)ハンギョレ新聞社	元・記者
	阪谷 昭弘	花園中学高等学校	教諭
	張 宇衛	台湾大學中国文学系	助理教授
	梁 曉虹	南山大学総合政策学部	教授
	張 莉	大阪教育大学教育学部	准教授
	井ノ口 哲也	東京学芸大学教育学部	教授
	重信 あゆみ	大阪府立大学	客員研究員
	安永 知晃	関西学院大学	非常勤講師
	山本 堯	公益財団法人泉屋博古館	学芸員
	久保 輝幸	横浜商科大学総合教養センター	准教授
	高橋 あやの	大東文化大学	非常勤講師
	石川 大我	株式会社早川書房	社員
	末次 信行	千里金蘭大学	元教授
	多田 伊織	大阪府立大学	客員研究員
	山田 明広	奈良学園大学人間教育学部	准教授
	黄 庭頌	政治大學中國文學系助理教授	助理教授
	高島 敏夫	白川静記念東洋文字文化研究所	客員研究員
	侯 栄川	中国 温州大学	教授
	小野 響	電気通信大学	講師
	横大路 綾子	京都西山高校	非常勤講師
	唐 鈺	立命館大学	非常勤講師
	王 睿	河南農業大學	准教授
	王 瑞	復旦大学 中国歴史地理研究センター	博士研究員
	猪俣 貴幸	京都外国語大学 外国語学部	非常勤講師
	郭 雪妮	陝西師範大学文学院教授	早稲田大学訪問学者
	志賀 市子	茨城キリスト教大学文学部	教授
	周 祖亮	広西中医薬大学	教授
	劉 宏輝	華東師範大學	講師
	陳 逸文	台湾 東呉大学中国文学系	助理教授
その他の学外者	村田 右富実	関西大学	教授
	笹原 宏之	早稲田大学	教授
	佐古 愛己	佛教大学	教授 (ARC 客員研究員)
	黄 鶯	福州大学外国語學院	講師
	住吉 朋彦	慶應義塾大学	教授
	沈 慶昊	高麗大学校	教授

	金 程宇	南京大学	教授
	富 嘉吟	お茶の水大学	助教
	余 筠珺	台湾大学	助理教授
研究所構成員 計 108 名 (うち学内の若手研究者 計 11 名)			

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2024年3月31日時点)
また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	向静静	『医学と儒学：近世東アジアの医の交流』	単著	2023年5月	人文書院		344p
2	久保輝幸	『与花方作譜：宋代植物譜録循迹』	単著	2023年5月	広西科学技術出版社		429p
3	草野友子	『詩経』の形成：儀礼化から世俗化へ	共著	2023年6月	東方書店 2023	陳致, 湯城吉信, 古賀芳枝, 中村未来, 湯浅邦弘	429p
4	名和敏光	『古漢字発展論』	共訳	2023年6月	樹立社・ゆまに書房	黄徳寛他著；監訳：藪敏裕。石川泰成, 鋤田智彦, 宮本徹, 劉海宇訳	661p
5	落合淳思	『古代中国説話と真相』	単著	2023年7月	筑摩書房		350p
6	佐藤信弥	『古代中国王朝史の誕生』	単著	2023年7月	筑摩書房		294p
7	大形徹	『巫・占の異相：東アジアにおける巫・占術の多角的研究』、『巫・靈・鬻・筮』を執筆	共著	2023年8月	志学社	吉村美香編	352p (pp. 35-97)
8	笹原宏之	方言漢字事典	単著	2023年10月	研究社		273p
9	笹原宏之	『美しい日本の一文字：国字が教えてくれる大切にしたい和のこころと風景』	単著	2024年1月	自由国民社		135p
10	松尾肇子	雅詞的受容—中日文人對宋詞的期望	単著	2023年8月	台北市：万卷楼圖書股份有限公司	翻訳：靳春雨	
11	大田壮一郎	東寺執行日記 第2巻	共著	2024年2月	思文閣出版	東寺文書研究会、遠藤基郎、高橋敏子	PP. 1~304
12	花田卓司	概説日本法制史 第2版	共著	2023年10月	弘文堂	出口雄一・神野潔・十川陽一・山本英貴編著	PP. 158~179
13	花田卓司	創建二〇〇年記念特別展結城神社の至宝	共著	2024年2月	公益財団法人石水博物館		PP. 52~56
14							

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	笹原 宏之	氏名の「伝説」に対する検証(4) 「神」と書いて「アホ」と読ませる氏や名は実在したか?(7)	単著	2023年4月	戸籍：戸籍・住民基本台帳実務家の機関誌 / 全国連合戸籍住民基本台帳事務協議会 編(1023)		pp. 82~844	無

2	笹原 宏之	「書評 菊地恵太著『日本略字体史論考』」	単著	2023年4月	日本語の研究 = Studies in the Japanese language / 日本語学会 編 19 (1),		pp. 94~101,	有
3	笹原 宏之	「令和時代の漢字と表記」	単著	2023年4月	ことばと文字 (16)		pp. 159~168,	無
4	笹原 宏之	氏名の「伝説」に対する検証 (5) 「修」で「なか」、「十八公」で「まつま」は名乗り訓ではなかったのか? (1)」	単著	2023年5月	戸籍：戸籍・住民基本台帳実務家の機関誌 / 全国連合戸籍住民基本台帳事務協議会 編 (1024) 5		pp. 84~86,	無
5	笹原宏之	同(2)	単著	2023年6月	同上		pp. 147~148	無
6	松本保宣	「延英殿と宰相処罰：唐文宗朝の疑獄事件を中心に」	単著	2023年6月	立命館文学 The journal of cultural sciences / 立命館大学人文学会 編 (684)		pp. 31~53	有
7	大形徹	「まえがき」	単著	2023年6月	『万葉集』と道教・仏教・医学—超越的存在への憧憬と苦からの解放— 一三回奈良県立万葉文化館委託共同研究『万葉集』と道教・仏教・医学—超越的存在への憧憬と苦からの解放』成果報告書(予稿集)		pp. 2~5	無
8	多田伊織	「吉野 仙境とその周辺」	単著	2023年6月	同上		pp. 6~13	無
9	大形徹・山本優紀子	「万葉集と水江浦嶋子—玉篋と魂をめぐって—」	共著	2023年6月	同上	池内早紀子	pp. 34~53	無
10	山本優紀子・大形徹	「万葉の竹取物語と月の伝説と不死の薬」	共著	2023年6月	同上	池内早紀子	pp. 54~63	無
11	久保輝幸	「本草学の分類学への貢献：十九世紀以前の日本の植物の調査と記載」	単著	2023年6月	『東アジア比較文化研究』 (22)		pp. 17~33	有
12	安永知晃	「清代后妃の晋封形式と後宮秩序」	単著	2023年6月	『アジア遊学』 (283)		pp. 124~140	無
13	佐藤 信弥	「『陳情令』のルーツ：仙俠と武俠、金庸作品との関係、時代背景」	単著	2023年6月	すばる 45 (6)		pp. 136~143	無
14	久保 輝幸	「本草学の分類学への貢献：十九世紀以前の日本の植物の調査と記載」	単著	2023年6月	東アジア比較文化研究 (22)		pp. 17~33	有
15	山田明廣	天理大學附属天理参考館「館蔵資料から見る 神仙思想と道教」展報告	共著	2023年6月	東方宗教 = The Journal of eastern religions / 日本道教學會 編 (141)	中尾 徳仁	pp. 115~120	有
16	山本優紀子	林一鳥『腫病応用之論』について	共著	2023年6月	医譚 = History of medicine : journal of the Kansai Branch of the Japan Society of Medical History / 日本医史学会関西支部 編 (117)	池内 早紀子	pp. 10880 ~ 10883	有

17	笹原 宏之	氏名の「伝説」に対する検証(5)「修」で「なか」、「十八公」で「まつま」は名乗り訓ではなかったのか?(3)」	単著	2023年7月	戸籍：戸籍・住民基本台帳実務家の機関誌 / 全国連合戸籍住民基本台帳事務協議会 編 (1026)		pp. 85~86	無
18	大形徹	「關於左之工」	単著	2023年7月	『世界漢字学会第九屆年會會議論文集』、世界漢字学会		pp. 1367 ~ 1384	無
19	名和敏光	「虎溪山漢簡札記」	単著	2023年7月	同上		pp. 635~641	無
20	村田 右富実	「天平十三年の書持と家持との贈答について(三) : その表現について」	単著	2023年7月	関西大学東西学術研究所紀要 56		pp. 37~51	有
21	安永 知晃	「新刊紹介 岡田和一郎・永田拓治編『漢とは何か』」	単著	2023年8月	唐代史研究 = The journal of Tang historical studies : The Tōdaishi-kenkyū / 唐代史研究会 編 (26)		pp. 153~156	有
22	山本 堯	「胡銅製作技法研究序説 : 野村美術館所蔵品の調査から」	共著	2023年8月	研究紀要 / 野村美術館学芸部 編 (33)	, 伊住 禮次朗, 樋口 陽介, 新郷 英弘	pp. 46~56	有
23	笹原 宏之	氏名の「伝説」に対する検証(5)「修」で「なか」、「十八公」で「まつま」は名乗り訓ではなかったのか?(4)」	単著	2023年8月	戸籍：戸籍・住民基本台帳実務家の機関誌 / 全国連合戸籍住民基本台帳事務協議会 編 (1027)		pp. 89~90	無
24	笹原 宏之	氏名の「伝説」に対する検証(6)「名の止め字の「夫」はいつから「お」と読んで使われたのか(1)」	単著	2023年9月	同 (1028)		pp. 106~107	無
25	大形徹	『十問』云柏考	単著	2023年9月	清華大学 『出土文献与漢字發展史國際學術研討會』予稿集、清華大学出土文献研究与保護中心		pp. 41~50	無
26	名和敏光	「虎溪山漢簡一例占術理論與綴合」	単著	2023年9月	同上		pp. 51~62	無
27	大形徹	「東アジア漢字文化圏の疾病・疫病観の史的・現代的展開—鬼系病因論の起源と思想的水脈—」に寄せて」	単著	2023年9月	『古代文化 = Cultura antiqua』75 (2)、(通巻第633号) 2		pp. 19~21	有
28	大形徹	「漢字文化圏の疾病観」	単著	2023年9月	同上		pp. 188~199	有
29	六車楓	「清華簡『五紀』に見える身体と病気の記述について」	単著	2023年9月	同上		pp. 221~226、	有
30	多田伊織	「淡と痰と澹 : 古代インド医学と中国医学の交渉」同左、	単著	2023年9月	同上		pp. 212~220	有
31	大形徹	「脱炭素」	単著	2023年9月	COLUMN #1 白川学の世界 23.3 RADIANT [特		p. 68	無

					集] 脱炭素 ISSUE21 September 23 立命館 大学 研究活動報 Ritsumeikan University Research Reort			
32	笹原 宏 之	氏名の「伝説」に 対する検証(6)「名 の止め字の「夫」 はいつから「お」 と読んで使われた のか(2)」	単著	2023年10月	戸籍：戸籍・住民基本 台帳実務家の機関誌 / 全国連合戸籍住民基本 台帳事務協議会 編 (1029)		pp. 88～89,	無
33	大形徹	「日本的難與方相 氏」	単著	2023年10月	「病魔：東亞視域下的 醫療與鬼邪」國際研討 會予稿集 中央研究院 歷史語言研究所 主辦 單位：國科會計畫「伝統 中国的『魅病』論述與醫 療策略」：中央研究院語 所生命醫療史研究室		予稿集のため ページ数なし	無
34	山田 崇 仁	「書評 佐藤信弥 著『戦争の中国古 代史』」	単著	2023年10月	立命館アジア・日本研 究学術年報 4 (0)		pp. 219～223	無
35	村田右富 実	『校本万葉集』に おいて校合の対象 となっていない断 簡類	単著	2023年10月	『萬葉』萬葉学会編輯 委員会 編 (236)		pp. 59～72	有
36	高橋あや の	「南宋『中興四朝 国史』天文志の特 徴—『文献通考』 象緯考を手掛かり として」	単著	2024年10月	東洋研究 (231)		pp. 1～31	有
37	笹原 宏 之	氏名の「伝説」に 対する検証(6)「名 の止め字の「夫」 はいつから「お」 と読んで使われた のか(3)」	単著	2023年11月	戸籍：戸籍・住民基本 台帳実務家の機関誌 / 全国連合戸籍住民基本 台帳事務協議会 編 (1030)		pp. 81-82,	無
38	笹原 宏 之	「デジタル時代の あるある漢字の勘 違い(第11回)漢 字の誤字と略字」	単著	2023年11月	安全衛生のひろば 64 (11)		pp. 40～41	無
39	落合淳思	「字源と語源の関 係」	単著	2023年11月	『漢字文化事典』丸善 出版、日本漢字学会		pp. 26～27	有
40	落合淳思	「第二章 漢字の 誕生と発展 まえ がき	単著	2023年11月	同上	松江崇	p. 69	有
41	山田崇仁	「八卦と結繩」	単著	2023年11月	同上		pp. 71～71	有
42	重信あゆ み	「刻画符号」	単著	2023年11月	同上		pp. 74～75	有
43	落合淳思	「甲骨の発見と 『鉄雲蔵龜』」	単著	2023年11月	同上		pp. 76～77	有
44	笠川直樹	「国内の甲骨文字 所蔵と展示」	単著	2023年11月	同上		pp. 82～83	有
45	落合淳思	「『金文編・甲骨文 編』」	単著	2023年11月	同上		pp. 84～85	有
46	落合淳思	「『甲骨文合集』」	単著	2023年11月	同上		pp. 86～87	有
47	佐藤信弥	「『殷周金文集 成』」	単著	2023年11月	同上		pp. 88～89	有
48	佐藤信弥	「著名な青銅器と 銘文」	単著	2023年11月	同上		pp. 90～91	有
49	笠川直樹	「国内における青 銅器のコレクショ	単著	2023年11月	同上		pp. 92～93	有

		ンと展示」						
50	石井真美子	「孫臏兵法の発見と竹簡の整理」	単著	2023年11月	同上		pp. 108～109	有
51	名和敏光	「帛書」	単著	2023年11月	同上		pp. 138～139	有
52	名和敏光	「蔡倫以前の紙」	単著	2023年11月	同上		pp. 142～143	有
53	笹原宏之	「第四章 日本の漢字文化」	共著	2023年11月	同上	山本真吾	p. 157	有
54	笹原宏之	「字種の作製 日本製漢字・国字」	単著	2023年11月	同上		pp. 206～207	有
55	笹原宏之	「社会集団・個人・場面による漢字の変異 位相文字・位相音訓・俗字」	単著	2023年11月	同上		pp. 216～217	有
56	笹原宏之	「地域による文字の変異 方言文字・方言音訓」	単著	2023年11月	同上		pp. 218～219	有
57	笹原宏之	「人名用漢字の変遷」	単著	2023年11月	同上		pp. 250～251	有
58	大形徹	「篆刻の世界 中国」	単著	2023年11月	同上		pp. 400～401	有
59	張莉	「看板に見る漢字」	単著	2023年11月	同上		pp. 410～411	有
60	山田崇仁	「第九章 漢字とコンピュータ」まえがき	共著	2023年11月	同上	安岡孝一	p. 413	有
61	山田崇仁	「日本語入力と誤変換」	単著	2023年11月	同上		pp. 418～419	有
62	笹原宏之	氏名の「伝説」に対する検証(6)「名の止め字の「夫」はいつから「お」と読んで使われたのか(4)」	単著	2023年12月		戸籍：戸籍・住民基本台帳実務家の機関誌 / 全国連合戸籍住民基本台帳事務協議会 編 (1031)	pp. 93～94	無
63	末次信行	(資料紹介)青銅器二器(徳尊と邾國高柄方壺)	単著	2023年12月		漢字學研究 / 立命館大學白川靜記念東洋文字文化研究所 編 (11)	pp. 1～20	有
64	佐藤信弥	「毘尊/卣」	単著	2023年12月	同上		pp. 21～34	有
65	村上幸造	「戎生編鐘」	単著	2023年12月	同上		pp. 57～80	有
66	山田崇仁	「楚屈子赤目簠」	単著	2023年12月	同上		pp. 81～95	有
67	笠川直樹	「曾公編鐘」	単著	2023年12月	同上		pp. 97～121	有
68	三輪健介	「衍簠・槐簠」	単著	2023年12月	同上		pp. 35～55	有
69	横大路綾子	二〇二一年古文字學論著目	単著	2023年12月	同上		145～150	無
70	高橋あやの	南宋『中興四朝国史』天文志の特徴—『文献通考』象緯考を手掛かりとして	単著	2024年1月	東洋研究 (231)		1～31	有
71	笹原宏之	同(5)「名の止め字の「夫」はいつから「お」と読んで使われたのか(5)」	単著	2024年1月	同(1033)		pp. 122～123	無
72	笹原宏之	氏名の「伝説」に対する検証(7)「朧」という字は名前にふさわしいか(1)」	単著	2024年2月	同 (1035)		pp. 110～111	無

73	島山奈緒子・山本優紀子	『急救仙方』卷之十、卷之十一訳註稿(3)」	単著	2024年3月	人文学論集 = The humanities : 国際フォーラム / 大阪公立大学人文学会 編 42	池内早紀子	pp. 89~146	有
74	山本堯	「西周・大保貞」	単著	2024年3月	國華 / 國華編輯委員会 編 129 (8), 7		pp. 36~38	有
75	山本堯	「美術館ならではの研究活動をめざして : 博物館活動奨励賞受賞に寄せて」	単著	2024年3月	博物館研究 = Museum studies / 日本博物館協会 編 59 (3),		pp. 26	有
76	久保輝幸	「自報家門 : 私の生い立ち : 熊貓叢書『汪曾祺小説選』に寄せて」	単著	2024年3月	人文学論集 = The humanities : 国際フォーラム / 大阪公立大学人文学会 編 42	汪曾祺,	pp. 69~80	有
77	多田伊織	「吉野 仙境とその周辺」	単著	2024年3月	万葉古代学研究年報 = Annual report of Man'yo historical research / 奈良県立万葉文化館企画普及課 編 (22)		pp. 196~187	無
78	山本優紀子, 大形徹	「万葉の竹取物語と月の伝説と不死の薬」	共著	2024年3月	同上	池内 早紀子	pp. 132~143	無
79	大形徹, 山本 優紀子	「万葉集と水江浦嶋子」	共著	2024年3月	同上	池内 早紀子	pp. 144~162	無
80	楊 冰	詞「蝶恋花」における王国維の境界と時間	単著	2024年3月	人文学論集 42		pp. . 31~45	有
81	斬春雨	「和刻本元好問詩詞集的刊行及其在日本的受容探析」	単著	2023年6月	立命館大学アジア・日本研究所『日中韓詞学論文集 花間集から近藤元粹まで』		PP. 94~110	無
82	住吉朋彦	天理図書館蔵五山版考述(二)	単著	2023年5月	「ビブリア」第159号		PP. 19~58	無
83	住吉朋彦	天理図書館蔵五山版考述(三)	単著	2023年10月	「ビブリア」第160号		PP. 15~64	無
84	萩原正樹	近藤南州の手記「詩餘」	単著	2023年6月	立命館大学アジア・日本研究所『日中韓詞学論文集 花間集から近藤元粹まで』		PP. 1~16	無
85	萩原正樹	森山東陽の詞と『筆錦詞藻』	単著	2023年12月	『風絮』第20号		PP. 97~125	無
86	松尾肇子	北宋滅亡の混乱を生きた女性詩人(李清照)	単著	2023年6月	アジア人物史4「文化の爛熟と武人の台頭」第八章、集英社		PP. 361~420	無
87	松尾肇子	陽明文庫蔵 新井白石「楼名」をめぐって	単著	2023年9月	『東海学園 言語・文学・文化』第80号		PP. 47~59	無
88	松尾肇子	王昭君を詠じた十一~十三世紀の題畫詩	単著	202年12月	『日本宋代文学学会報』第十集		PP. 1~27	有
89	松尾肇子	石川鴻斎の詩餘	単著	202年12月	『風絮』第20号、		PP. 28~96	無
90	魯耀翰	朝鮮前期元好問『遺山楽府』의 受容에 대하여: 金時習의 예를 중심으로	単著	2023年6月	立命館大学アジア・日本研究所『日中韓詞学論文集 花間集から近藤元粹まで』		PP. 29~59	無
91	魯耀翰	許筠의 『宋王荊公二体詩鈔』 編纂의 意味	単著	2023年8月	『淵民学志』 第40号			無

92	魯耀翰	朝鮮前期 性理書 收入斗 刊行	単著	2023年10月	『漢文学論集』第66号			無
93	魯耀翰	朝鮮科挙文化史叙 説	単著	2023年12月	高麗大学校漢字漢文研 究所編 『朝鮮時代 科 試 文献斗 文体』 인다 出版社			無
94	川崎佐知 子	涉成園の偶仙楼を めぐって	単著	2023年5月	株式会社臨川書店、國 語國文、第92巻5号		PP. 30~49	有
95	川崎佐知 子	享保十六年の近衛 家	単著	2024年3月	立命館白川静記念東洋 文字文化研究所、立命 館白川静記念洋文字文 化研究所紀要、17号		PP. 23~34	無
96	大田壯一 郎	藤井永観文庫所蔵 相覚撰・聖通伝領 「古口決抄鈔出」 について	単著	2023年11月	立命館大学アート・リ サーチセンター、紀要 アートルサーチ、24(2)		PP. 1~5	無
97	大田壯一 郎	覚城院と近世仁尾 浦の宗教秩序(前 一十七世紀を中心 に	単著	2024年1月	臨川書店、寺院文献資 料学の新展開 第2巻 覚城院資料の調査と研 究II		PP. 229~266	有
98	佐古愛己	書評明治大学除目 書刊行委員会編 (田島公・末柄豊 か・牧野淳司・南 保勝美)『明治大学 図書館所蔵三条西 家本除目書』	単著	2023年6月	史学会、史学雑誌、132 巻6号		PP. 1003~1014	無
99	佐古愛己	東坊城家蔵書目録 (補遺)と東坊城 任長	単著	2024年3月	佛教大学、歴史学部論 集14号		PP. 77~90	無
100	花田卓司	足利義氏の三河守 補任をめぐって	単著	2024年3月	日本歴史学会、日本歴 史、910号		PP. 74~81	無
101	花田卓司	帝塚山大学所蔵の 文明八年十一月二 日大奉仕行清寄進 状一呉田吉田家 「聆涛閣」旧蔵文 書の紹介一	共著	2024年2月	奈良学総合文化研究 所、奈良学研究、26号	辻極侑衣	PP. 33~39	無
102	花田卓司	新刊紹介 三枝暁 子著『日本中世の 民衆世界—西京神 人の千年—』	単著	2023年10月	都市史学会、都市史研 究、10号		PP. 120	無
103	杉橋隆夫	鎌倉殿と京都	単著	2023年5月	国際京都学協会、国際 京都学だより、38号		pp. 24-33	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	島山奈緒 子	「天回医簡からわかる 漢代の医学」、	2024年5月	京都大学人文科学研究所、第2回 「中国生活文化の思想史」班研究 会	猪飼祥夫
2	島山奈緒 子	「京都府北部に眠る医 学史料—太田典禮およ び新宮涼庭ゆかりの史 料群—」	2024年6月	第125回日本医師学会学術大会 二松学舎大学	
3	大形徹	關於左之工	2024年7月	世界汉字学会(WACCS)第九届年会 暨国际学术研讨会“汉字跨学科研 究及汉字知识挖掘” 韩国 釜山 慶星大学	
4	重信歩	日本江戸時代漢字文本 《小野篁歌字盡》在民衆 教育中的作用	2024年7月	同上	
5	名和敏光	虎溪山漢簡札記	2024年7月	同上	

6	大形徹	『十問』云柏考	2024年9月	清華大学出土文献与漢字發展史國際學術研討会、北京市海淀区清華大学出土文献研究与保護中心 .9.9	
7	名和敏光	虎溪山漢簡一例占術理論與綴合	2024年9月	同上。	
8	多田伊織	「吉野 仙境とその周辺」	2023年10月	『万葉集』と道教・仏教・医学～超越的存在への憧憬と苦からの解放 シンポジウム 万葉文化館	
9	大形徹・山本優紀子	「万葉集と水江浦嶋子―玉篋と魂をめぐって―」	2023年10月	同上	池内早紀子
10	山本優紀子・大形徹	「万葉の竹取物語と月の伝説と不死の薬」	2023年10月	同上	池内早紀子
11	大形徹	「日本の儼與方相氏」 発表人と主持人	2023年10月	「病魅:東亞視域下の醫療與鬼邪」國際研討會 中央研究院歷史語言研究所研究大樓 704 會議室 主辦單位:國科會計畫「傳統中国的『魅病』論述與醫療策略」:中研院史語所生命醫療史研究室	
12	大形徹	芝草考	2024年1月	韓國慶星大學、語言背後有什麼? 第六屆漢字學國際冬令營	
13	富嘉吟	江戸末期における漢籍の流転:『竹友集』を例として	2023年4月	お茶の水女子大学中文学会例会	
14	富嘉吟	『趙志集』三題	2023年9月	2023年中国中世写本研究夏季大会、佛教大学	
15	高井龍	試論龍谷大學藏本《悉達太子修道因縁》	2023年9月	第7回東亞漢籍交流國際學術會議 南京大学域外漢籍研究所	
16	藤田優子	《草堂詩餘》和南北曲	2023年9月	第7回東亞漢籍交流國際學術會議 南京大学域外漢籍研究所	
17	住吉朋彦	江戸幕府紅葉山文庫とその目録	2024年2月	「朝鮮渡り唐本研究」2023年度研究成果報告会	
18	魯耀翰	高麗大晩松文庫藏庚子字本『西山先生眞文忠公文章正宗』書入の評點と評語について	2024年2月	「朝鮮渡り唐本研究」2023年度研究成果報告会	
19	芳村弘道	二〇二三年度の調査報告など	2024年2月	「朝鮮渡り唐本研究」2023年度研究成果報告会	
20	萩原正樹	「槐南詩話」について	2024年2月	「日中韓文人交流研究」2023年度研究成果報告会	
21	鄭玲玉	毛維茜瞻の生涯について	2023年7月	中國藝文研究會 研究会	
22	川崎佐知子	陽明文庫藏『予楽院殿詩文集』	2023年4月	第18回近衛家の漢学研究会、立命館大学衣笠キャンパス	
23	川崎佐知子	陽明文庫藏『予楽院殿詩文集』1・2番詩	2023年5月	第19回近衛家の漢学研究会、立命館大学衣笠キャンパス	
29	中本大	陽明文庫藏『予楽院殿詩文集』3・4番詩	2023年5月	第20回近衛家の漢学研究会、立命館大学衣笠キャンパス	
30	黄鶯	陽明文庫藏『予楽院殿詩文集』7番詩	2023年6月	第22回近衛家の漢学研究会、立命館大学衣笠キャンパス	
31	高語莎	陽明文庫藏『予楽院殿詩文集』8番詩	2023年6月	第22回近衛家の漢学研究会、立命館大学衣笠キャンパス	
32	中本大	陽明文庫藏『予楽院殿詩文集』9番詩	2023年7月	第23回近衛家の漢学研究会、立命館大学衣笠キャンパス	
33	川崎佐知子	陽明文庫藏『予楽院殿詩文集』10番詩	2023年7月	第23回近衛家の漢学研究会、立命館大学衣笠キャンパス	
34	中本大	陽明文庫藏『予楽院殿詩文集』13番詩	2023年10月	第25回近衛家の漢学研究会、立命館大学衣笠キャンパス	
35	川崎佐知子	陽明文庫藏『予楽院殿詩文集』14番詩	2023年10月	第25回近衛家の漢学研究会、立命館大学衣笠キャンパス	
36	黄鶯	陽明文庫藏『予楽院殿詩文集』15番詩	2023年11月	第26回近衛家の漢学研究会、立命館大学衣笠キャンパス	

37	大田壮一郎	The Relationship between Political Power and Sects in Medieval Japan: Focusing on Sectarian Disputes Shuron (宗論)	2023年11月	Transcending the Tangibility and Intangibility: Religion and Media in Pre-Modern East and West Eurasia, Tokyo Metropolitan University	
38	金津日出美	多言語・多文化教育を目指した大一小連携の試み—留学生と学ぶ異文化接触、中国語、韓国語—	2023年8月	(国際学会) 母語・継承語・バイリンガル教育学会、オンライン開催	三ツ木由佳、吉廣亮子、Janiele Shirley、Brian Nishikawa
39	金津日出美	総合討論「동아시아 냉전과 근대 역사학의 탈식민적 변용: 비교, 성찰, 전망(東アジアの冷戦と近代歴史学の脱植民の変容: 比較、省察、展望)」*韓国語	2023年12月	(国際学会) 韓国学中央研究院現代韓国研究所・歴史教育研究会2023冬季大会、韓国学中央研究院(京畿道城南市)	

4. 主催したシンポジウム・研究会等

No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	鬼系病因論研究会 中尾徳仁 [天理参考館] 道教および神仙思想に関する辟邪物—天理参考館の所蔵資料を中心に	大学コンソーシアムキャンパスプラザ京都6階	2023年4月	24名(対面・オンライン)	漢字学研究会
2	第109回 漢字学研究会 笠川直樹: 金文通解 曾伯漆壺	同上	2023年4月	同上	鬼系病因論研究会
3	鬼系病因論研究会 山田明広 [大和大学] 台湾道教の疫病払いの儀礼—台湾南部地域の「王醮」を中心に—	同上	2023年5月	21名(対面・オンライン)	漢字学研究会
4	第110回 漢字学研究会 笠川直樹: 曾伯漆壺・山田崇仁: 『歴代三寶紀』帝年に記される周王の諡號・諱について・末次信行: 新出資料紹介	同上	同上	同上	鬼系病因論研究会
5	鬼系病因論研究会 百瀬佑 [公益財団法人武田科学振興財団 杏雨書屋部長] 杏雨書屋所蔵疫病関係資料について 衣笠キャンパス存心館	同上	2023年6月	19名(対面・オンライン)	漢字学研究会
6	鬼系病因論研究会 志賀市子 [茨城キリスト教大学] 飛鸞救劫—19世紀中国のペスト禍と扶鸞儀礼	同上	2023年7月	21名(対面・オンライン)	漢字学研究会
7	第111回 漢字学研究会 安東麟: 『商周古文字読本』裘衛盃・佐藤信弥: 荊子鼎	同上	同上	同上	鬼系病因論研究会
8	鬼系病因論研究会 小山瞳 [関西大学] 病と虎について—中国説話文献を中心に—	同上	2023年9月	19名(対面・オンライン)	漢字学研究会
9	第112回 漢字学研究会 佐藤信弥: 荊子鼎・山田崇仁: 蔦子(閑)関連器	同上	同上	同上	鬼系病因論研究会
10	鬼系病因論研究会 向静静 [立命館アジア・日本研究機構] 「鬼」から「毒」へ: 日本における疫病観の変遷と疫病への対応	同上	2023年10月	20名(対面・オンライン)	漢字学研究会

11	第 113 回 漢字学研究会 山田崇仁：蔦子馮関連器・末次信行：新出資料紹介	同上	同上	同上	鬼系病因論研究会
12	鬼系病因論研究会 張如青 [上海中医薬大学] 北大秦簡祝由方初探 成高雅 [通訳 京都大学]	同上	2023 年 11 月	20 名(対面・オンライン)	漢字学研究会
13	第 114 回 漢字学研究会 村上幸造：幽公盞	同上	同上	同上	鬼系病因論研究会
14	鬼系病因論研究会 小山聡子 [二松学舎大学] 鬼による病気とその治療—日本中世を中心として	関西大学千里山キャンパス以文館	2023 年 12 月	多数	漢字学研究会・阪神中哲談話会
15	立命館土曜講座(第 115 回 漢字学研究会)「出土文字資料から見える先秦史—楚国を事例として—」山田 崇仁・立命館大学非常勤講師/白川静記念東洋文字文化研究所客員研究員	衣笠キャンパス立命館大学末川記念会館 + ZOOM	2024 年 1 月 13 日	122 名(対面・オンライン・見逃し配信)	立命館土曜講座・漢字学研究会
16	立命館土曜講座(鬼系病因論研究会)「『辟邪絵』に見る疫鬼とそれを滅する神々」下野玲子・武蔵野美術大学 非常勤講師/早稲田大学 非常勤講師	衣笠キャンパス立命館大学歴史都市防災研究所 + ZOOM)	2024 年 1 月	82 名(対面・オンライン)	立命館土曜講座・漢字学研究会・鬼系病因論研究会
17	第 116 回漢字学研究会 三輪健介：逆鐘	大学コンソーシアムキャンパスプラザ京都 6 階 (オンライン併用)	2024 年 2 月	13 名(対面・オンライン)	鬼系病因論研究会
18	鬼系病因論研究会 陳明 [北京大学]：秦漢出土病方的発現与発展	衣笠キャンパス学而館	2024 年 2 月	24 名(対面・オンライン)	漢字学研究会
19 ～ 40	『千金翼方』禁経研究会 第 25 回 2023 年 4 月 6 日(木) 18:30～20:30 禁法大例第四 ～掌訣法第五～禁鬼客忤氣第六～第 46 回 2024 年 3 月 7 日(木) 18:30～20:30 禁温疫時行第七まで	オンライン	隔週(年間 22 回) 4/6・4/20・5/4・5/18・6/14・6/29・7/13・7/27・8/10・8/24・9/21・10/5・10/19・11/2・11/16・12/14・12/28・1/11・1/25・2/8・2/22・3/7・	隔週(年間 22 回) 4/6(17 名)・4/20(10 名)・5/4(10 名)・5/18(13 名)・6/1(14 名)・6/29(13 名)・7/13(8 名)・7/27(12 名)・8/10(11 名)・8/24(11 名)・9/21(11 名)・10/5(12 名)・10/19(11 名)・11/2(10 名)・11/16(12 名)・12/14(13 名)・12/28(6 名)・1/11(13 名)・1/25(14 名)・2/8(11 名)・2/22(11 名)・3/7(13 名)・延べ 256 名	鬼系病因論研究会・漢字学研究会

41	「朝鮮渡り唐本研究」研究成果報告会	衣笠キャンパス存心館 205 教室	2024年2月24日	18名	
42	「日中韓文人交流研究」研究成果報告会	衣笠キャンパス存心館 205 教室	2024年2月24日	18名	
43	第18回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2023年4月	7名	
44	第19回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2023年5月	7名	
45	第20回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2023年5月	7名	
46	第21回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2023年6月	7名	
47	第22回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2023年6月	7名	
48	第23回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2023年7月	7名	
49	第24回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2023年9月	7名	
50	第25回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2023年10月	7名	
51	第26回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2023年11月	7名	
52	第27回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2024年3月	7名	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	大形徹	馬王堆の『胎産書』の占いについて	公益社団法人 日本易学連合会 近畿支部	2023年4月9日
2	大形徹	庭園と蓬萊山	第98回国際京都学研究会 からすま京都ホテル3F 会議室	2023年4月21日
3	大形徹・山本優紀子・池内早紀子	中国におけるチガヤ・ススキなどの植物の役割—お月見のススキと比較して	十五夜 第4回 日中韓オンライン・シンポジウム宮崎公立大学民俗学研究室 宮崎公立大学学術研究推進助成事業	2023年10月7日
4	大形徹・山本優紀子・池内早紀子	春節の今昔 いまむかし	令和5年度宮崎公立大学学術研究推進助成事業 多文化共生シンポジウム オンライン併用 日本の盆・正月／東アジアの中秋節・秋夕・春節 ソルラルー宮崎の二重構造— 宮崎公立大学 103 教室 主催 宮崎公立大学民俗学研究室	2024年3月24日
5	大形徹	コラム 荘子と語る	東大阪新聞 計12回掲載	2023年4月～2024年3月
6	大形徹	先生	NHK Eテレ 「漢字ふむふむ」	2023年4月18日 23:15～23:20
7	大形徹	餅	NHK Eテレ 「漢字ふむふむ」	2023年4月25日 23:15～23:20
8	山本堯	龍のナゾ大研究！	NHK 「ダーウインが来た！」お正月特集	2024年1月14日 19:30～20:00。
9	大田壮一郎	特別講演・記念講演「足利将軍家と新八幡宮—篠村八幡宮を起点として—」	亀岡市文化資料館第39回特別展「足利尊氏」（亀岡市文化資料館主催）	2023年11月～12月
10	花田卓司	「足利尊氏の生涯」	亀岡市文化資料館第三九回特別展「足利尊氏」展講演会（亀岡市文化資料館主催）	2023年12月
11	花田卓司	蔵書印から探る帝塚山大学所蔵文書の世界	名品・名作誕生XIX 帝塚山大学東生駒キャンパス（帝塚山大学奈良学総合文化研究	2024年2月

			所主催)	
12	花田卓司	室町時代の戦乱と政変—明徳の乱	朝日カルチャーセンター (中之島教室)	2024年2月
13	花田卓司	室町時代の戦乱と政変—嘉吉の乱	朝日カルチャーセンター (中之島教室)	2024年2月
14	花田卓司	室町時代の戦乱と政変—明応の政変	朝日カルチャーセンター (中之島教室)	2024年2月
15	杉橋隆夫	源頼朝—中世の武将たち	姫路市民講座 (姫路市市民会館)	2023年7月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
なし					

7. 科学研究費助成事業 (科研費)						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	山田崇仁	情報化時代における佚文収集の手法についての研究：大蔵経からの抽出を事例として	基盤研究(C)	2018年4月	2025年3月	代表
2	梁 暁虹	日本中世における異体字の研究—無窮会系本『大般若経音義』三種を中心として	基盤研究(C)	2019年4月	2024年3月	代表
3	村田右富実	上代特殊仮名遣いを区別した『万葉集』の複数テキスト構築とその統計学的研究	基盤研究(C)	2020年4月	2025年3月	代表
4	山田崇仁	中国殷周金文のデジタルテキスト作成に関する基礎的研究	基盤研究(C)	2021年4月	2025年3月	代表
5	落合淳志	漢字の部首(字素・意符)の多様性とその時代的変遷	基盤研究(C)	2021年4月	2025年3月	代表
6	佐藤信弥	同上	同上	同上	同上	分担
7	大形徹	東アジア漢字文化圏の疾病・疫病観の史的・現代的展開：鬼系病因論の起源と思想的水脈	基盤研究(B)	2022年4月	2025年3月	代表
8	佐藤信弥・山田崇仁・落合淳志・名和敏光・多田伊織(永瀬伊織)・石井真美子	同上	同上	同上	同上	分担
9	大形徹・山本堯	古代東アジアの祥瑞と王権：漢～唐代成立の瑞獣画像をめぐる学際的研究(研究代表者 松浦 史子)	基盤研究(B)	2022年4月	2026年3月	分担
10	名和敏光	中国古代術数学における占術と儀礼研究	基盤研究(C)	2022年4月	2025年3月	代表
11	小倉聖	同上	同上	同上	同上	分担
12	山本堯	図像・出土器物・文献資料による古代東アジアにおける饗宴システムの復元と比較研究(研究代表者 森下 章司)	基盤研究(B)	2022年4月	2027年3月	分担
13	笹原宏之	現代日本における人名使用漢字の字種・字体・読み方に関する実証的研究	基盤研究(C)	2022年4月	2025年3月	代表
14	大形徹	道教の聖地としての洞天への巡礼と東アジアにおけるその思想文化に関する調査研究(研究代表者 土屋昌明)	基盤研究(B)	2023年4月	2026年3月	分担
15	白須裕之	『玉燭宝典』研究の基礎づくりに向けて(研究代表者 古勝 隆一)	基盤研究(C)	2023年4月	2027年3月	分担

